

## 第4回 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会

令和5年(2023年)2月21日(火)13時30分～

日野町役場 防災センター研修室

~~~~~

### ○子ども支援課長

第4回日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会に足元の悪い中をお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今年度最後の懇話会になると思いますが、いろいろと議題もございますので、皆さんのご意見をいただけたらありがたいと思います。

それでは、設置要綱に従いまして佐々木委員長から進行をよろしく願いいたします。

~~~~~

### ○委員長

こんにちは。今年度最後の懇話会になります。よろしく願いいたします。

はじめに、配付資料の確認を事務局からお願いしてもよろしいでしょうか。

(配付資料確認)

### ○委員長

それでは、始めさせていただきます。

今日の主要なテーマは、保育者ワークショップの結果報告と中間報告の案を作ってみましたので、皆さんにご確認いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

~~~~~

### ○委員長

それでは、はじめに保育者ワークショップの概要を報告させていただきます。

参加者は、公立園もそうですが、私立園さんにもご参加いただき、多種多様な保育者の方、勤務しているところも違いますし、公立・私立の枠を超えて、実施できたのは非常に良かったと思っております。

内容については、「①子育て環境の未来像づくりの進め方について」と「②幼稚園保育園ワークの結果について」は、私からお話しをしまして、「③子育て環境の未来を探る(ワークショップ)」については、他のワークショップと基本的な構成は同じです。

問い掛けをどうしたかという、恐らく課題がたくさん出るだろうという予測はしていましたが、今回大事なのは、どういう思いからその課題が生まれているかだと思います。何を目指しているのかというところがはっきりすれば、その課題に答えていかなければいけないという話にもつながっていくと思われましたので、「あなたの思う「こんなに保育をしたい」を教えてください」ということをメインテーマにしました。

自己紹介のところでは、「最近あった園児さんの面白かったエピソードを教えてください」ということで、保育者同士はじめて会われる方もおられましたので、少し和やかにな

るようにさせていただいたという感じです。

大きなテーマとして「日野町内で子育て環境（園）が続いていくための課題」ということで、「あなたの思う「こんな保育をしたい」を教えてください」という形で、実際に聞いたのは、2つのセクションに分けました。1つ目は理想の話です。どういったところを目指して保育をされているか、「①あなたの思う「こんな保育をしたい」を教えてください」ということです。2番目は、いろんなことがあって恐らくそれが実現できてないと思いますので、「②それを叶えるためにはどんなことが必要ですか」という2段構えでお聞きしました。それを取りまとめた概要報告をさせていただきたいと思います。

「①あなたの思う「こんな保育をしたい」を教えてください」で、非常に印象的だったのは、11回のワークで30ぐらいのグループがありましたが「笑顔でいられる」ということを皆さん書かれるのですよ。その辺が印象に残っています。皆さんは何に向かっていいのかということで大きいところとしてあるのは「笑顔」、それと「楽しく」、これは「誰が」というと、もちろん来てくださっている子どももそうだし、保育者もそうだし、保護者もそういうふうな感じだったらいいということをお話しておられました。

子どもはどのような形になってほしいのか、これはいくつかキーワードがあって、非常によく出ていたのが、「主体的」「一人ひとり」「のびのび」、そして「安心」、このあたりのキーワードがよく出ていました。主体的な遊びとか、その子がやってみたいことに挑戦できるかどうか。特にやってみようかなと思っても、なかなかそこに踏み出せない子がいるので、そこをちゃんと支えていきたいという思いもあり、そのあたりが「やってみることができ」「挑戦することができる」というところにあります。

その次に来るのが、「一人ひとりが大切にされている」「満たされている」「のびのびできる」「安心できる場所」、そういった場所に園をしていきたい。また明日も園に行きたいなど思ってくれるような場所にしたい、という思いをたくさんお聞きしました。

そのあたりを勘案して、「自分の思いや気持ちを出せる」、本当はこういうことがしたいとか、こういうところで困っているけど助けを呼べないということがあるそうで、その意味で安心したり、満たされたり、挑戦できることをやったりということを通じて、「自分の思いや気持ちを出せる」、他の言葉で言うと「友だちがつくれる」ということも書かれていた方がおられました。以上が、子どもに対するところになります。

それから、「ゆったりと」というキーワードも出てきます。保護者さんともっといろんなことでコミュニケーションしたい、できればゆったりとしたい。けれども現実はどうなのかという話はあとで出てきますが、また保育者同士も密にコミュニケーションしたいというお話もされていました。子どもに何かあった時や日々の仕事をしている中での悩み等も含めて情報共有をしたい、語り合う場があればいいなという話をされていました。

日野に来て喜んでおられる方もいましたが「地域と交流できる」「地域と子どもが交流できる」という形をもっとやりたいというお話をいただきました。エピソードとして心に残ったのが、他の地域で保育士をされていて、日野に連れて来て保育士をされている方が、

日野に来てびっくりしたのは、散歩していると地域の人が声を掛けてくれる、それに子どもたちも喜ぶと。こんな環境がよかったですと話している方がおられました。あと、自然に囲まれているので、もっと自然と触れ合いたいというお話もされていました。

それから、地場産品ということも含めて、もっと教材研究をしていきたい、研修ももっと受けて自分を磨いていきたいということもありましたし、子どもたちと遊ぶ道具等を製作して、充実させていきたいと、もっと工夫できることがいろいろあるはずだと前向きに話されていました。

次に、「それを叶えるためにはどんなことが必要ですか」というところで、「人が足りていない」という話が絶対にあがってきます。ただ、「適切な人数」と書かせていただいたのですが、むやみやたらに人が欲しいと言っている方は1人もいなかったです。そうではなくて、それぞれの年齢に応じた人が欲しい。逆に子どもがある程度の年齢になると、大人だらけというのもよくない。決してたくさん人がいてくださいと言っているのではなく、それぞれの年齢に合わせて人が張り付いてほしいということをお話しておられました。

そうのことがどういった背景かという、子ども側から言いますと、「新たな課題の発生」があるということです。「困りごとを言い出せない」「遊びが見つけれない」「甘えられない」「大人との付き合いしか知らない」というような子どもが増えてきている。「保育時間が長く疲れている」という子どもも見受けられる。「支援の必要な子が多く十分に関われない」、「言語が異なる」というのは日本語が通じないという意味です。このような新たな課題がどんどん増えてきているということです。

「コロナ対応による制約」は、言うまでもないことです。

外へ散歩に行くのでも、保育者が一人欠けると、外に散歩に連れていくと約束していても行けなくなってしまったということもあるそうですし、コロナがなかったとしても、今、安全面というのが日非常に厳しく問われるようになってきたので、本当だったらの方がいいこともできなくなってしまっている。

それから「家庭支援の増加」もあります。そういったことによってどんどんやらねばならないことが増えていき、人が足りていないということを伺っています。

園庭とか園舎の広さが十分でないところもありますので、それも課題としてあげられました。

このような結果、「時間がない」、行事が大切なのは百も承知だけれども、これだけいろんなことがある中で、正直「行事に追われている」という実情があるというお話もいただきました。

「保育者同士の連携が困難」、シフトの関係もありますので、なかなか情報が共有しにくい、子どもにとってはいつも同じ先生がいるという形にするのが最適だろうけど、なかなかそれが難しい。もちろん「待遇」の問題もあります。結果として、「離職」「保育者新規確保の困難」につながっているというお話がありました。

結局のところ、目標というのは、本質的な意味で「楽しく笑顔でいられるような園」、

笑顔、笑顔と皆さん共通して話されるのがすごく印象に残りました。

子どもの新たな問題、家庭支援の問題、言語が異なる問題は、週に何回か通訳さんが入られるところもあるそうです。支援が必要な子がいれば、それに対して加配を付けたり、何もされていないわけではないと話していただいたのですが、結局、人を増やしても新たな問題が発生してきて、現場の実感としては、何もよくなったようには感じないというお話になります。

ここから先は資料として書きづらかったので、この場で報告させていただきますが、今回、30回近くのワークショップをさせていただきましたが、これは厳しいと感じたのは、保育者ワークで正規職員さん相手のワークでしたが、言葉が適切かどうか私も迷うのですが、まず皆さん、非常に真剣に参加してくださいましたが、ほとんどあてにされてないなと思いました。「ここでいろんなことを言ったところで私たちの環境は何が変わるのでしょうか」と、そうは言われていませんが、感覚として問われているように感じた点がありました。

私もいろんな河川や防災の厳しい現場のワークを体験してまいりました。出席されている方が椅子を蹴り飛ばしたり、机を倒されるような、そういう職種の方の集まりもありましたが、そういうところよりも、この現場はずっと緊迫感がありました。

ですから、私も「本日参加していただきありがとうございました」みたいなことは言えなくて、私が現時点で皆さんの前で言えることは、皆さんからいただいたお話を懇話会へ持ち帰って、真剣に受け止めることだと思っておりますというところまでしか言えなかったです。それくらい現場は真剣に子どもやお母さん方、日々のことに向き合っていて、「で、この場は何？」ということ私をすごく問われているということを実感しました。紙に書くと語弊が出るかも知れないし、私の感じた感覚を皆さんにお伝えできるかという思いがあったので、紙には書いていません。ただ、そういった現場があったことは事実ですので、皆さんには共有したいと思って報告させていただきます。

今後検討を進めていくために、保育者ワークを受け止めて私がどう思ったのかということをお話したいと思えます。

1つ目は、公民館ワークでも言われてきたのですが、行政は何をやってきたのかという突っ込みが当然くるわけです。もちろん行政もいろいろな手を打っていらっしゃるの事実だと思うのですが、正直私も全部は知りません。恐らくここにご出席いただいている皆さんも、全部を知っているわけではないと思えます。

そして、行政がやってみて、うまくいったこと、いかなかったことがあると思いますが、それをみんなで共有した方がいいのではないかと思います。やってみてうまくいかなかった、もしくは、やろうと思ってもできなかったということを確認して、我々がそれに対してどういう案を考えるかということも非常に大事だと思います。これは防災の現場でもそうです。すべての災害を予知することは不可能ですよね。でも、災害が起こると、行政はなんで予知しなかったのかと絶対言われるのですよ。子どものことについても、全

部のことを将来にわたって想定できるわけではないと思うので、このあたりを私は皆さんと一緒に勉強したいと思っています。

2つ目、行政がいろんな試みをして、うまくいったこと、いかなかったことがある。けれど、現場の保育士さんは追い詰められていく。新規の保育士募集をしても応募が来ないということ、いかに日野町の皆さんと共有するのかというのが大きな課題だと思っています。でなければ、行政は結論ありき、すると決めているという話になりかねないし、そこは課題意識として私は持っています。少なくともまずこの懇話会の皆さんがそれは知っていないといけない。それはよくないというところに合意できなかつたら、町民の皆さんに向けてそんな話を言っても通じないと思います。そのやり方がいいのか、ぜひ一緒に悩んでいただきたいと思います。以上が私からのワークの報告になります。

~~~~~

### ○委員長

この課題について皆さんと意見交換する前に、これまでの経緯を簡単にまとめていただきましたので、皆さんと一緒に私も勉強したいと思います。説明をお願いします。

### ○事務局

失礼します。お手元の資料をもとに説明させていただきたいと思います。

まず横長の表の裏面を見ていただきたいと思います。昭和50年以降で調べました日野町の幼児教育の主な出来事でございます。

昭和50年に今のこぼと園の敷地に、旧のこぼと園が竣工されました。

昭和59年には、必佐幼稚園2年制（4・5歳児）がスタートしました。

同年に、必佐幼稚園の新園舎が竣工したというところです。この時期ぐらいに日野町内の必佐幼稚園、南比都佐幼稚園、日野幼稚園が建設されていきます。

あわせて、日野町の全幼稚園が2年制になりました。

平成に入りますと、西宮神社のところにありましたふたば園と上野田にありましたひばり園を1つに統廃合して、現在のあおぞら園になりました。

桜谷幼稚園、さくら園（現桜谷こども園）等々、昭和の終わりから平成の初めにかけて新しい園舎が竣工されていきます。

その当時、日野町には7つの地区に小学校と幼稚園がありましたが、平成10年になりますと、鎌掛幼稚園が日野幼稚園の分園に変わります。そこから始まりまして、平成13年からは3歳児保育がスタートしていきます。また平成18年には日野幼稚園で預かり保育のモデル事業をスタートして、今も継続しているところです。

平成23年には東桜谷地区の幼稚園と西桜谷地区の幼稚園が今の桜谷子ども園の第1園舎のところにあります桜谷幼稚園として統廃合されました。

平成26年には第2わらべ保育園がスタートしました。

また、平成27年度には桜谷幼稚園とさくら園が合同運営をしまして、桜谷幼児園とい

う名称に一時期変わりました。これがあとに続く桜谷こども園の始まりになっていくところ です。

平成27年には、昭和50年に建てましたこぼと園が老朽化してきましたので、今現在のこぼと園に建て替えを行いました。

わらべ保育園も含めて、平成26年以降、保育所を利用したいという子どもさんの数が大幅に増えてきましたので、町としましては、認定こども園化やこぼと園の増設、日野幼稚園の鎌掛分園を幼稚園として利用していたのを、あおぞら園の鎌掛分園として、1・2歳児の子どもさんをお預かりする保育所に用途変更をしてきました。

平成29年には必佐幼稚園で預かり保育のモデル事業を開始してきたところです。

この出来事等々を踏まえまして、表面の表に戻っていただきたいのですが、平成22年度当時、就学前（0歳児～5歳児）人口が1,193人でありました。そこに対して保育所を利用されていた子どもさんの数は268人、保育士の数は66人でした。

幼稚園については、387人の子どもさんが幼稚園に通われていて、幼稚園教諭は55人でした。

平成28年度くらいから、保育所の利用が増えてくるわけですが、子どもさんの数については若干減りまして、平成28年度では1,087人、保育所を利用されている子どもさんは427人と、ここで160人くらい増えてきています。

それに伴い、町では第2わらべ園の竣工、こぼと園の新園舎の竣工、日野幼稚園鎌掛分園をあおぞら園の鎌掛分園に転用しまして、1・2歳児の保育等を始めさせていただきました。当時の保育士については90人でした。

幼稚園につきましては、利用者数が減って来まして、282人になりました。幼稚園教諭については49人で、幼稚園が減りまして保育所が増えていきますので、幼稚園教諭が減って保育士が増えていくというところがございます。

令和4年度を見ていただきますと、就学前の人口が919人、保育所を利用しておられる子どもさんは418人です。保育士の数は増えまして、140の方が日野町で働いておられます。

幼稚園を利用されている子どもさんは210人になり、幼稚園についてはどんどん子どもさんの数が減っていつているところです。幼稚園教諭は48人ということで、預かり保育のスタート、3歳児保育のスタートによりまして、平成28年くらいから大きな職員数の減りはないということです。

下の表を見ていただきますと、平成22年から令和4年とありますが、就学前人口は平成22年で1,193人、保育所や幼稚園に通っておられる子どもさん、それから在宅の子どもさんが530人ほどおられたわけですが、これが令和4年には在宅の子どもさんは272人で、半分近くまで減ってきているということで、家庭での保育ではなくて、早い段階で保育所等の利用が増えてきていると考えられます。

平成22年は保育士・幼稚園教諭は121人だったところに対しまして、令和4年につ

いては 188 人と、だいたい 60 人くらい増えてきております。

平成 22 年から令和 4 年までの公立保育士等の正規職員の採用数につきましては、平成 22 年から令和 4 年まで 39 人、正規職員として雇用してきました。ただ、退職された方については 26 人、ここ近年、平成 31 年・令和 2 年・令和 3 年と少し増えてきておりますが、正規でいきますと 13 人職員を増やしてきたところでございます。

日野町としましても、「教育」から「保育」にニーズが移行するに際しまして、職員の数の増加、施設の転用等を進めてきたわけですが、それでも今の現状、保育士等のワークでもございましたとおり、適切などころに人が配置されていないというのが現状でございます。

上の表で見ていただきたいのですが、加配児については、保育所・幼稚園でそれぞれ数名おられます。1 : 1 と 1 : 3 と書いていますが、1 : 1 というのは、1 人の子どもに対して 1 人の先生が付かなければならない数となります。平成 28 年以前の数字はございませんでしたので何ともわからないのですが、いろいろな先生に聞いていますと、加配児の数が増えているような印象を持たれているというところでは。

~~~~~

#### ○委員長

ありがとうございます。それでは、ここまでの報告を踏まえて、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。また順番に、よろしく申し上げます。

#### ○委員

先ほどありました「みんなが笑顔でいられるように」ということに関してですが、保育者も家庭育児をされている保護者の方とほとんど気持ちは一緒で、子どもをいかに笑顔で一日過ごさせてあげられるか、もちろん自分も笑顔で子どもと接していかれるかということが一番の望みです。

保護者になってから思うのですが、保育士をしていた時と一緒にだと思えます。保育士も本当に保護者の方と同じ気持ちで子どもさんを見させていただいていると思えます。家庭で育児していく時もそうですが、例えば旦那さんが帰ってくるのが遅いとか、祖父母と同居している時よりも、同居していない時の方が、育児の負担や大変さ、つらさがあります。余裕がなくなると笑顔なんて出てこないの、それは保育士の方も保護者と一緒で、人数が足りていないと笑顔が欠けるのかなと感じます。保育士の方が一番自覚しているので、笑顔でいたいけど、笑顔でいる時間が少ないというのが現状です。それは人数が足りていないということが理由かなと思いました。

それから、先ほど説明のあった表で少し疑問がありますが、人数のところ、幼稚園の在籍児の数、平成 22 年度の 387 人から令和 4 年度の 210 人に減っている中で、幼稚園教諭の数が 55 人から 48 人に減ったというのが、あまり減っていないのではないかと。保育園に通わせる子どもが増えているというのが現状で、その分、保育士を増やさないとはいけない。でも、全然増えないので困っているという現状の中で、この 48 人はすごく多い

なという印象です。これをどうしたらいいのかはわかりませんが、15年ほど前から幼稚園をなくして子ども園にどんどん移行していくという流れになったと思いますが、日野町に関しては子ども園が1園、幼稚園は何園かあるという現状なので、この先、幼稚園をどういうふうに子ども園に移行させていかれるのか。早く移行させないといけない。そうすると幼稚園にかかっている人員をもう少し保育園に回せるのかなと思います。

日野町も広いので、合同させたら保護者の方も送り迎えが大変になりますが、現在、2園に子どもを送っている保護者の方も周りで聞いたりしているので、少し遠くても1園に送っていく方が、楽とは言えないかも知れませんが、それもアリなのかなと。そうすることで保育園に先生を回せることもできるのかなと。細かいことまで私はわからないので、パッと見て、ここがちょっと気になって、どういうふうにしていかれるのか、疑問を持ちました。見当違いのことを言っていたら申し訳ないのですが、以上です。

#### ○委員長

「どうしていかれるか」を提言するのが我々なので、一緒に頑張りましょう。

質問としては、幼稚園教諭がなぜこれだけ人数確保されているのかということと、もしお答えが可能でしたらお願いしたいのですが。

#### ○事務局

まず幼稚園ですけれども、今現在、日野幼稚園が4クラス、必佐幼稚園が4クラス、西大路幼稚園が3クラス、南比都佐幼稚園が3クラスで、全部で14クラスになります。クラス担任の先生が必ず1人入りますので、最低でも14人必要になってきます。幼稚園児の加配児のところを見ていただくと、1:1の方が7人おられますので、そこで7人要ります。3:1のところは30人おられますので、単純に加配の先生がそこで10人要ります。日野町全体で30人、各園各クラスそれぞれではないので、単純に10人ということにはならないのと、必佐幼稚園・日野幼稚園については預かり保育がありますので、それはまた別の先生が対応しております。

その辺を足していくとこの人数になっているというところでは。

#### ○委員長

ありがとうございます。私も勉強になりました。次の方、お願いします。

#### ○委員

先ほど説明していただいたのですが、加配児というのは障がいがあるお子さんに対する加配という意味だと思うのですが、この場にいる人たちは加配というだけでは理解できないと思うので、その辺の説明をもう一度していただきたいと思います。あと、私の子どもが2人行っているのは第2わらべ園ですけれども、年表ではわらべ園の記述がないのかなと思いました。わらべ園の始まりとわらべ園設立の文字がついてないというのが正直思ったところでございます。

#### ○委員長

わらべ園はもっと前ですか。

## ○委員

そうですね、わらべ園は昭和55年に共同保育所という形でさせてもらって、それから無認可の保育所を経て、認可の保育所を経て、平成3年のところで社会福祉法人日野福祉会というところが、わらべ保育所を設立したということになっています。

建物的には昭和56年からお寺のところを借りたりして運営していたということになります。

## ○委員長

ありがとうございます。

## ○委員

わらべ園はお寺のところから始まった、いわゆる「育児の場」から始まっていると思うのですが、そういう部分はこの場で共有しておかないといけないのではないのかなというのは、通わせている保護者としても思いました。それが今の問題とか現実につながっているような気がしているので、原点回帰、地域の子どもと一緒に育てていくという意味においては、その部分はちゃんと見ておいた方がいいのではないのでしょうか。以上です。

## ○委員長

ありがとうございます。この資料については、書き加えないといけないことも多々あると思います。まずは、加配児というのは何なのかという説明をお願いします。

## ○事務局

失礼します。加配児につきましては、委員がおっしゃっていただいたように、発達支援が必要なお子さんのことです。個別の支援が必要な子どもさんについての状況を、まずは健診等々から状況把握をさせていただいて、そのお子さんが集団生活の中で自己発揮をしていただくにあたり、どのような支援が適当であるのかどうかというところで、1対1の支援が適当なのか、3対1程度の支援が必要なのか、それとも担任配慮で少し、時と場合に応じて支援をしていくことが必要なのか、その子の発達上、一番適切であるのかどうかということを見極めて、加配としての職員の配置をさせていただいているという状況です。

## ○委員長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。それでは続いてお願いします。

## ○委員

就学前の人口と保育園・幼稚園の人口を足した時に、両方とも入っていない子がいる。定員は割れているという中で、日野町は10月にエントリーをしないと次の年から園に入れませんという話になっている。年度途中から働きに行きたいと思っている人が、定員割れしているのであれば、随時入っていけるシステムを組んでいくというのも1ついいのかなと思います。10月の時点で考えきれていない、計画がまだまだ立てられていない家庭もあると思うので、そういったところの見直しをしていただければいいなと思うところはあります。

あと、加配児についてですけれども、私も学校教育に携わっていて、加配児などいろいろと気になる場面はあるのですけれども、加配されていない子どもにどれだけ手がかかっているのかというのも、先生方の日常、保育士さんの業務として、加配はついていないけれども、手がかかるという子どもが一定人数いるのではないかなというところがあります。

あと、保育士等の人数が足りないという話のところ、人数が十分いたらいいという問題ではないよなという話も出てきたと思います。その中で、現場の先生方がスキルアップのために研修をしっかり受けられているのかというところが気になりました。定員いっぱいの中だから、出られる人だけとか、上の人だけとか、本当に現場で一生懸命頑張っている人たちへの研修がきちんと行われているのかなというところが気にもなります。

そういったところで耳にするのは、地域とのつながりは日野町にとって素晴らしいところだと思いますが、日野町の教育・保育の遅れということも耳にします。私の知人で他市の保育士をしていて、日野町へ帰ってまた保育士をして、やっぱり遅れていると感じている人がいます。この状況では子どもたちが一番の被害者になると。もう少し現場の先生方が研修を経て、新しい保育の進め方、指導方法を学ぶべきだということも言われています。人が足りていないというのは、日常をこなしていただくというのではなくて、しっかりとスキルアップのためにも必要なのかなとも思います。

私も学校教育をしている中で大変だなと思うのは、教師間や保育士間で情報共有、いろいろところで研修や教材研究が必要と思いますが、それをすることによって時間を取られ、一番自分がやりたいこと、自分が時間を割きたいところに割けなくて、本当に今、何をすべきか、何に時間を割くべきかをもう一度整理しないと、理想、理想、理想だけでは、何も始まらないと思います。

あと、子どもの課題、困り事を言い出せない、遊びか見つけられない、甘えられないとか、私もそうだなと思います。やはり家庭基盤の弱さ、家庭教育の弱さ、本当に保護者が子どもに時間を割けているのか、愛情を注いでいるのか。自分が仕事をしてお金を稼がないといけないというのは重々わかるけれども、長時間保育所に子どもを預けていて、それが本当に誰のためなのか、子どものためなのか、自分のためなのか、親も考え直さないといけないなということを改めて感じました。以上です。

## ○委員長

ありがとうございます。ワークを担当させていただいて感じたことと、先生方から、こういうご意見があったということをお答えさせていただきます。

もちろん研修は望んでおられますが、そこに至る余裕がないという話を伺っています。もっと研修をすべきだという声の方が多かったです。

それから、「誰のための保育か」という話がありました。素晴らしい保育、365日、24時間の保育という話があり、子どものためというのがまず大前提にあって、いつの間にか親のための保育になっているのではないかということと言われる先生もおられました。

エントリーの話ですが、いろいろ情報を整理した方がいいと思うので、また別途ということでもよろしいでしょうか。

加配されてない子どもの話も、全体的に手がかかる子どもが増えている印象があるというふうに先生方も話されておられました。そのあたりの話も、数字的な根拠があれば具体的にお話しできると思いますので、今後の宿題にさせていただきます。

### ○委員

子どもたちを預かっている立場から、今のお話のところで感想等含めてお話しさせていただきます。

手のかかる子、家庭基盤が弱くなっているということにも原因するのかも知れませんが、保育園に来て自分のことが自分でできるか、よくベテランの先生たちが、何年も前だったらこんなことしていたのになあということが、今は子どもたち自身できないという状況があるのは事実です。

ただ、子どもたちに自ら行動できるように、そういう促しをしようと思うと、実はいっぱい人が要るのです。0歳児は3対1、3人に1人保育士がいたらいい。1・2歳児は6人で1人保育士がいたらいいとか、保育士が何人いたら保育できるという定数はありますが、今の状況ではそこに無理があるのではないかという話をしています。

日野町以外の市町や、私立で財力があつたりすると、4対1とか5対1とか、もっと保育士を配置している保育園もあります。保育園で何年か園長をさせていただいていますが、そんなに悪い求人条件でもないなと思いますが、募集しても誰も来てくれないのです。保育士の人数が増えないからとか、4対1とか5対1にするから、もう預かれませんかと言っても、預かってほしいという人は増えてくるから、それもできないとかいうのが現状ではないかなと思います。

その中で、先生たちがいろいろと工夫をしてくれて、研修に行ったり、自分たちでやっていこうという部分もありますし、手を抜いているわけではありませんが、子どもたちの人数と自分たちの人数との矛盾みたいところで、悩みは尽きないのかなと思います。

それと、他市で勤めておられた先生たちが、日野町は遅れていると言われていたというのは、具体的にどういう部分が遅れていると感じておられるのか、ぜひ教えていただきたいと思います。以上です。

### ○委員長

ありがとうございます。実は私もそれは気になっていたもので、もし具体的なお話があればお願いします。

### ○委員

具体的なお話をするのであれば、本人を呼ぶのがいいです。私が言うと間違っって伝わったりするかも知れないと思いますが、例えば、子どもたちにさせればいいのになということ、時間に追われて先生がやってしまったとか、子どもたちの成長に関わることを経験させて学ばせたらいいのに、そこを先生が補うということがあつたり、これって子ども

たちのためになるのかなと言われていました。

一番印象に残っているのは、先生の都合で物事を運んでいることです。それはやはり時間に追われているとか、いろいろあるから致し方ない部分があると思うのですが、私ももう一度聞き取りをさせていただいて、またお伝えしようと思います。

#### ○委員長

ありがとうございます。

#### ○委員

失礼します。幼稚園の子どもたちというのは人数が少なくなっはいますけれども、幼稚園は、3歳になって初めて集団に入るところが保育園や子ども園と大きく違います。3歳になるまで、それぞれの家庭でそれぞれのやり方が育てられた子どもたちが初めて集団に入りますので、今は幼稚園の生活に子どもたちを合わせていこうという形ではなくて、子どもたちの3歳までの経験、食べているもの、生活リズム、遊んできた内容、関わって来た人等いろいろ違っているんで、できるだけ子どもたちが今までどのように生活してきたかということを取り上げて、そちらを大事にしながら、集団に少しずつ慣れていくようにしようということをやっています。

それから、家庭の子育て力という話も出ていますが、今までだったら、子どもたちを保育することに力を注いでいくことができたのが、保護者と一緒に考えていく保護者支援であるとか、そういうことも先生方にかかってくるので、負担が大きくなってきています。子どもたちの成長を考えた保育をしていく、プラス、保護者さんと一緒にお話をして子どもたちを育てていく部分とそれを支援していく部分、いろいろなことが出てきているので、現場の先生方はすごく負担感を感じています。純粹に子どもたちと一緒に遊んだりしながら、楽しく笑顔でやっているといいのですが、それプラス、現場で出てくるいろいろな書類もありますけれども、子どもたちの成長を記録していくもの、それを細かく丁寧にしていこうと思うと、やはり負担感を感じてしまう職員もいるのかなと感じています。

支援を必要とする子どもさんも増えてきています。加配のある子どもたちは加配の先生が見ていただいています。でも、加配のない子どもたちは担任が見ていけない。クラスに20人とか30人いるので、担任がそこを丁寧に見ていこうと思うとまた負担感があります。でも、現場の先生方は子どもたち一人ひとりと向き合いたいと思っていますので、しっかりしていきたいという思いとか色々あり、毎日悩んでいただいていると思っています。そういうことをこの場でしっかりと知っていただくということも、とても現場として嬉しいことかなと思っています。

#### ○委員長

ありがとうございます。書類のことも言われていました。減らすことも考えましたが、結局また他のものが増えている状況にあります。

#### ○委員

私自身、保育の先生方のお話を聞きたいと思っていて、いろいろな話を聞けたのは嬉

しいことだと思うのですが、同時に、現場の悩みとかなかなか解決するのは難しいですし、すぐにどうこうできる問題ではないのですが、子どもを預けている身として毎日先生と顔を合わせて、子どもの様子とかやり取りをするのですが、それでも先生と保護者の間で情報をたくさん共有できてないのかなと感じるところはあります。

先生方は人数が少ない中で一生懸命見てくださっていて、先生の方が足りてないから声がかげづらかったりしますけれども、子どもが困っていることとかすごくよく先生方は見てくださっています。3歳児というのはまだまだ自分のことができない子も多いので、子どもも声を掛けたいけど掛けられないというのは、先生からも見ておられますし、本人からも伝えづらいというのは家庭でも話を聞きます。

親としてはもっと先生と話したいと思います。一人ひとりが密に情報を共有し合うというのはなかなか難しい状況で、先生はいつでも相談してくださいとはいってくれますが、現状は難しいと思います。保護者としてはあまり負担をかけたくないので、言いづらい事とかたくさんあります。

あとは、園に保護者は頼り過ぎている部分もあるかなと思います。保護者会とかPTAに関わらせていただいていると、先生方の負担が大きいから、できればこうしてほしいという保護者への要望を聞くことがありますが、実際それを保護者に伝えてみると、その思いが伝わりにくい。先生方はこういうところを困っているから、保護者会としてはこうしてほしいと伝えても、親としてはこういうふうにしたいという、できれば保護者たちの思いを通してほしいという。なかなか先生の思いと保護者の思いがわかりあえないという部分があると思うので、保護者全体と先生全体でもう少し思いが共有し合える機会があればいいなと思っています。

### ○委員長

ありがとうございます。すごく大事なことをお話しいただいて、確かに、今は保護者と先生の間の話でしたけれども、ここで問題になっているのはもっと広い範囲の方々と、どう問題意識を共有するかということですね。ありがとうございました。

### ○委員

長時間保育を希望されている保護者さんがすごく増えてきているので、保育園と幼稚園と区別するのではなくて、合併するだけが手段だとは思いませんが、平等にというか、垣根がなくなれば保護者としても一番預けやすいのかなと思います。東近江市や甲賀市の子ども園や幼児園のことを噂で聞いていると、人数が増えると、その分子どもにも負担がいきますので、集めるだけが手段ではないというのをよく聞くので、そうなるとうやはり保育の中身かなと思います。

まず保護者として、先生方が一人ひとりを見たいとか、笑顔でとおっしゃって下さることはすごく嬉しく思いました。そんなふうに我が子を丁寧に関わってもらえるのかと思うと、嬉しい気持ちになります。

先ほど日野は遅れていると言われましたが、私は昔、他市で保育士をしていました。日

野町の保育は全然知らないのですが、我が子を預けている幼稚園のことしか知りませんが、設定保育に重きを置かれている点とかは、すごく歯がゆく思っています。主体的に子どもを育てていこうとなると、やはり自由遊びもとても大切で、登園して身支度が済んだら、「よし、何をして遊ぼうか」なんですよ。先生が言われることを待っているのではなくて、今日のはあの子と昨日の続きをするんだという、保障された時間と遊びが用意できているかなと思うと、日野はちょっと物的環境が弱いかなと、おもちゃが揃っていますかということが一番に思います。でも、先生方から意見として、お金がないとか、おもちゃがないとかいうことがあがってきてないことに私はびっくりしてしまいました。

### ○委員長

資料には書いてないのですが、そういう意見はあがっていました。

### ○委員

あと、竜王の方へ行かせてもらった時に、すごくデジタル化が進んでいて、日野町ではまだお帳面を活用していたり、書面でクラスだよりが配付されますが、それをアプリやLINEなどでされている園があるということを知って、そういう時代になってきているんだな、自分がついていけないなということを感じました。数年前に、キッズランドで子ども園に子どもと遊びに行かせてもらいました。夏でびしょ濡れになりましたが、子どもが園庭で裸になり、並んで水をかけてもらい、タオルだけで部屋に入る姿を見て、今の時代に合わないかなと感じました。

7年前まで保育士をしていましたが、裸は見られてはいけないもので、どこで盗撮されているかわからないと言われて、バリケートもつくったし、裸でいる時間を短くするためにはどういう動線がいいかをとことん話し合いました。その辺、今、幼稚園で並んでいたりと見ると、異様な感じ、昔っぽい風景かなと思うと、まだまだ改善できる点があるのではないかと思います。

あと、人が足りないというのは、自分が現場で働いていた時も出ていましたが、そんな時に人が足りない、時間が足りない、おもちゃが足りないと言う前に、資質向上、自分の腕を磨けと言われてきました。すごく厳しかったのですが、まさにそのとおりで、先生の人数がいるからトラブルが起きないわけでも、遊べるわけでもないですね。人を増やして解決するのではなくて、物的環境を揃えることを進めてもらいました。だだっ広い部屋で子どもたちが何を待っているのではなくて、やはりおもちゃは必要ですよ。そしてそれを使いこなせる先生たちも必要ですし、おもちゃを選ぶ目も大事です。そういうことを働いていた時にすごく教わりました。

日野の先生方はどこでどういう研修をされているのかわかりませんが、樋口先生や荒井先生に保育を学ばせてもらい、県外の園も見学に行かせてもらいましたが、日課のある生活をしていると、大人が関わらなくても子どもが育っている。そういうのを見ていると、まだまだ日野も学べることもあるのではないかと思います。

### ○委員長

ありがとうございました。私がある程度取捨選択してしまうこともあるので、全部は描き切れていませんが、そういうことを話される方もありました。加筆させていただきます。

あと、教材に関してもかなり意見が出ていました。自分自身で何とかしようという意見もかなりありました。特に新任の先生方はもっと自己研鑽をして何とかしたいということを書かれていましたので、誤解がないように私も書き直したいと思います。ありがとうございました。

## ○委員

今、保育の現場におられた方、青少年の育成をされている方、地域でやっていただいている方、僕はまた違う意見になりますが、検討懇話会が、先ほど先生が言われたみたいに、どういうふうなことを最終的にやっていけるのかということを考えています。

先生方が「実際何をしてくれるのか」と思われるのは確かかなと思います、手法とか現場のところというのは僕ら素人なので難しいところがありますが、保育の現場だけじゃないのです。僕は20年、製造業で職長もしてきましたが、毎日必死で、ある程度大手でも半日単位で派遣社員さん、外国の方が変わられるような状態を段取りしながら回していくというのが20年ほど続いたので、そのような生活を奥さんと相談して保育所にといいところでしたけど、まず保育園という構造の前に、世の中全体が、大人に笑顔がないというのが一番の原因かなと思います。

行政の方のできること、国・県それぞれあるので、財政規模も違うので、こんな公園があったらとか、こういうものがあるというところは財政力にもよるので、日野町は難しいところが出てくるかなと私的にも思います。

ただ、子どもにとっては関係ないので、これだけ子どもが減ってきている中で保育園の先生が困っていて、幼稚園の先生もどうしたらいいのかと、一番抜けていると思うのは、親がどうするべきかを真剣になって町全体で議論をしないといけない時代になってきたのです。それは、恐らく私たちの親の世代には伝わりにくいことかなと思います。

いろんな園の設定とか改修とか、いろんな補充をしていく中で、行政と議会に当事者がいるか、いないかということが重要で、そういったところに当事者がいて、町民の方に危機的状況だということを懇話会として示していく。行政の方と一緒に示していく。何回も示して、本当に先生が悲鳴をあげている。親も一緒になって考えないといけないから、親の親の世代も一緒になって考えてくれと言わないと、恐らく制度等を設定するのは非常に時間がかかって、お金もかかって難しい。

私は保育園の保護者会長を2016年にやらせてもらった時に、先生方と演劇をやりたいなと思って、3年間脚本を書いたりして、先生と一緒に子どもたちを何とか楽しませることができないかなと思います、僕らはできる立場でもあるので、先生みたいに毎日子どもと接して、接したくても接することができない親というのが社会構造で出来上がってしまっているのです、そういった中で今、この懇話会ができることは何かというと、私はまずは町民の方に行政と一緒に、危機的な状況なのでもう一度考え直す時期が来た

ということを公民館の中で伝えていくようにしないと、毎日、先生方の表情とか、明るくしていただいています、恐らく相当大変だなと思いつながら、預けている身としては無責任ですが、ただ、今のところ何かできるような状況でもなくて、一番はまずは知ってもらうことだと思います。

正規の先生、無償化になってしまうと、預けやすいまちになってしまつて、預かる方は絶対負けるし、もういっぱいいっばいだと話をしていてもわかるという方も多いので、その考え方を直していかないと、親はどんどん預けられるまちに移住して、預けやすくなるけれど、それは保育の質とは全く関係ないので、恐らくもうどこかで倒れてしまう時が、あと5年ぐらいで来そうな気がデータの的にもしていますので、この懇話会、せつかく立ち上がつて意識も知識もある方で構成されていると思うので、まず僕は大きめに町民の方に、今のこの30年で変わつてきた日野町内の保育教育の現状をまずさらけ出して、どうしますかという問題提起をしないと、取り返しがつかないことになるかなと思います。

その辺で個人としてできることを日々やつていく、先生と話す時間を5分でも無理してつくるということの努力が要るのかなと思いますので、私は町民の方への周知を徹底的にしていく中で、先生たちに対して、町への周知というのは先生方も当然情報を得てもらえると思うので、一生懸命になって周知から、現状を町の方に見ていただく。

となつと、先ほど地域とのつながり、私も日野町の良さは地域とのつながりだと思つので、しっかり伝わると何か状況が変わつてくる場面が今後出てくるまちかなと思つので、それが全国的なモデルケースになれば行政の方もやりやすくなつかなと思いますので、私はそこが一番大事で、危機感を共有するということが大事だと思つています。

### ○委員長

ありがとうございます。私も問題意識の1点はそこにありましたので、そこは考えていきたいと思つています。

### ○委員

いろいろお話を聞きながら、そうだねと思つのと、いや、違ふなあと思いつながら聞いていました。

私は今、認定こども園を4月に開園させていっただいて園長をしています、ずっと前は小さなまちで公立園に定年退職するまでは勤めさせていっただき、園長もさせていっただきました。私立の保育所を1園立ち上げたり、いろいろ携わつて今ここに来ていますが、確かにしんどい仕事です。身体もしんどい。朝早くから遅くまで体力仕事ですし、精神的にもメンタルがやられる仕事だなと思つています。

でも、保育士だけがそういう仕事かといつたら、そうではないと思つのです。企業の中でも、私たちが知らないだけで、仕事の中ではいろいろあるはずで、それぞれの仕事には「やりがい」と「しんどさ」がある。共有しながら、それでも皆さん仕事をなさっているわけですね。保育園・幼稚園もそうだと思いますが、私たちが続けられるのはなぜかといつと、この仕事はやっぱり楽しい、この仕事はいいなと思つ瞬間があつて続けられてきた

のかなと思います。私、今45年目ですけど、この仕事を辞められないのは、そこに醍醐味があるからなのですよ。面白いんです。それがどこにあるかと言うと、子どもなのです。

先ほど、加配の子どもとか、加配以外の子どもでも手がかかる子とか、出ていましたけど、私は、それは言い訳になってしまうと思うのです。今日たまたまうちの園であったことですが、うちの園は1年目ですから、4歳・5歳児の人数が少ないので合同のクラスです。先日お楽しみ会があって、よその園から来ている子ばかりですから経験がみんなバラバラで、自信がなくて、劇をやりにかけたけど、とても見せられないと担任が言ってきて、見せられないのなら見せなくていいじゃないのということで、違う形の発表をしたのです。すごくよかった。一人ひとりが1年間頑張ってきたこと、好きなことを発表しました。16人のクラスですが、誰かが前に出たら15人の子どもたちが「がんばれ！」と言って励まして、やっていることは拙い、幼いことですが、1年間頑張ったことが発表できてよかったなど、それでそれは終わったのです。

でも、今日クラスに行ったら、発表会が終わったのに劇遊びをやっているのです。そして担任が私のところに来て、今日は嬉しいと言うのです。今まで役を決めるのに手を挙げられなかった2人の男の子が、今日は初めて「うさぎをやる」「リスをやる」と言ってくれて、出た時はドキドキでしたが、楽しかったと言ってくれたことが本当に嬉しかったと言っていたのです。

これだな、保育士の醍醐味は。子どもたちが少しずつ、少しずつ自分を見つけていく姿に関われるということが、私たちの仕事の一番のやりがいなのだ。何か成果を出すとかいうことではありませんが、その子が育っていくのを共感できる、その場にいられる、そこに関われるという仕事が保育士の喜びということ、職員が学ぶのです。それがそのままつながっていて、保育という現場が成り立っていくと思うのです。

先ほど樋口先生の話が出ましたが、樋口先生がおっしゃっていたのは、環境は大事だ。でも、同じ環境を整えても、人によって子どもの育ちは違う。そこだと思うのです。そこを誰がやっていくのか。保育士さんたちは必死です。遅れているという話も出ました。私も日野町の桜谷こども園には年に数回、定期的に関わらせてもらっていて、行くたびに、1回目にここが問題だと言ったら、次に行った時には園庭にいろんな遊び場ができていたり、学びたい、学んでいきたいという先生たちばかりだなと思って、学ぶ機会とかをどうつなげていくか、町の中でつくっていくシステム。

国が今、アドバイザー制度を言われていると思いますが、私みたいに年に3回くらい行くような者が言っても、単発に指摘しかできない。でも、恒常的にいつも相談できるアドバイザーさんが市町の中にもし置けるのであれば、有名な人でなくても、一緒になって考えてくれる軸となるリーダーを置いていけるのならば、先生たちも学びたいと思っておられるなとすごく感じるので、私の感想で申し訳ないのですけど、そう思います。

## ○委員長

ワークをやらせていただいて、私も先生方から受けた印象をどれだけ伝えられている

わかりませんが、学びたいという気持ちはものすごく持っておられます。決して現状で甘んじようとか、人をとにかく増やしてくれとかいう話ではなくて、自らも何とかしようとか、機会さえあればもっと学びたいということは本当に話しておられましたので、今のご意見にどうつなげていくかということは宿題なのかなと思った次第です。ありがとうございました。

全部のことにお答えできていませんので、宿題として持ち帰るところは持ち帰らせていただくのと、私の資料で拾い切れてなかったところはまた加筆させていただきたいと思います。ありがとうございました。

~~~~~

## ○委員長

次に次第4 中間報告案について、皆さんにご案内したいと思います。今お話を聞いて直さなければならないところも見えてきたのですが、この懇話会を通じて行ったワークショップの内容などは、教育委員会の方、議会の方などいろんな方に説明していかなければなりません。あまりページ数が多いのもどうかと思いますので、A3両面刷りのイメージでつくっています。

そもそもこの懇話会は何か、検討プロセスとしてどんなワークをしたのか、議論として、とにかく要望だけの話をするのではなくて、子育ての将来像全体を示しますと。それから、懇話会の議論で、広い範囲を見るということと、もっと別の層からも話を聞くべきだということで、今日の時点では終わっていませんが、「発達に支援が必要な子どものいる保護者」向けワークショップも、計画に加えました。若者会議のワークショップも開催する予定をしています。

それから、それぞれのワークショップの概要を入れています。

裏面は、左側が公民館ワークショップの結果です。大きく子育て環境ということで、日野で大きく変わったところは、地域行事とか自然とかを体験する機会が間違いなく減っているし、それはかつてあったもので、あと、親子自身がいられる場所、「居場所」という話をさせていただきましたが、そういった課題があるというところを重なりという意味で入れさせていただきました。

右側は保育者向けワークショップですが、「人が足りていない」ということが書けていないので、もう少しここは加筆させていただくと、教材の話、研修の話等いろいろ加筆させていただきたいと思っています。

さらに、先ほどからの議論で出た「周知が大事」という話は、真剣に町民の皆さんと共有しなければいけない課題だと思っているので、懇話会の議論した内容のところに、はっきりと書いておかないとまずいなという思いを新たにしました。

私自身としては、それくらいは書き換えないとまずいなという状態ではあると思いますが、ほかに気になること、ご指摘いただくことがあれば、いかがでしょうか。

## ○委員

これはどこに報告されるのですか。

**○委員長**

まず教育委員会です。

**○子ども支援課長**

教員委員会が今月24日に開催されます。それと、議会も同じ24日に概要説明をさせていただき、再度、3月議会の最終日に今日の議論も踏まえ少し詳しい内容を説明させていただく時間を取らせてもらう予定です。

**○委員**

しっかりと伝えてもらわないと報告するだけの会議になって、議会としてどう動かれるのかという、危機感なく伝わると私たちが協議したこと、当事者の思いがゼロになってしまうので、そこは工夫して伝えてほしい。せっかく頑張ったので、それくらい大きな懇話会だと思うので、先生もそこを尽力いただきたいと思います。

**○委員長**

わかりました。書き方としてもっとそこを強調して書きます。

一面の概要のところなどを圧縮してでも、そこを入れて、もう1つ、可能な限り私が行けるところは行って説明させていただきという事はお願いしていますし、条例上の子ども・子育て会議にも私が行って報告させていただき予定をしていますので、私の口でちゃんと伝えるように頑張ります。

強調すべきところはそこだということを今日共有できましたし、私もこの資料では弱いということが確認できたので、ありがとうございます。

**○委員**

たぶんみんな一生懸命というのはどこでも感じられると思うのですが、やはりそこに責任を持つかという話もしてもらいたいと思います。お父さんやお母さんだけに責任を持たずという意味ではないですよ。子どもたちの成長に責任を持たないといけないのは大人だから、その部分ではきちんと考えないといけないみたいなどころ、お母さんはお母さん、お父さんはお父さんとしての立場だし、地域のおじさん、お婆さんの立場、保育園で子どもを見させてもらっている、0.1.2歳のこの時に、先生たちはこの子たちの成長のためにとやってることが積み重なって、3歳になったら一人で何でもできたりして、よかったねという、手をかけないといけないところ、力を注がないといけない場所を大人が見ないといけない、大人の責任、そこを強調してほしいです。

**○委員長**

ありがとうございます。私も説明する時にそこを意識するようにします。確かに「誰が」とか「誰のために」というあたりは、何度も出てきているところではあるので、意識して伝えるようにしたいと思います。

**○委員**

保育の質を上げるということに関して、時間が足りないというので、職員の業務の負担

を減らして欲しいというのが保育士からの要望ですけれども、今回の流れから言ったら、この業務は減らしたい、この業務はどうにかならないのかという話にならなかったのかなと思います。

業務の負担を減らすという意味で、使用済みオムツのお持ち帰り、保護者の方に持って帰ってもらうというのが滋賀県は全国ワースト1なのです。とにかく使用済みオムツを保護者の方に持って帰ってもらう負担、それも負担だし、もちろん、保育士も一人ひとりのオムツを間違えないようにしないといけないし、名前を書いてない子もいるし、においをかいだりもして、すごく負担で、それに保育士が1人取られていると、保育の現場が手薄になって、その間にケンカが始まったりとかいろいろあるので、とりあえずオムツのお持ち帰りをなくして、園の方で処理していただきたい。膨大なお金がかかるとも聞いたのですけれども、日野町で急に対応していただけたらなど。できない理由がいろいろあって、今まで引き延ばされているのかなと思うのですけれども、これが一番言いたかったことです。

先ほどデジタル化という話も出ましたけれども、なかなか手書きの事務作業が今もまだ多いので、デジタル化は早急に進めていただきたいのですが、何でもかんでもデジタル化がいいということではなくて、簡素化できるところはなくしていただくのが一番いいのですが、小学校に引き継ぐことなどなくせないこともあると思います。それならデジタル化にしてほしいとか、もう少し書くところを減らしていただきたいとか、提出しないといけない書類、年間1回で済むことは1回にしてほしいです。

それから、正規職員がしないといけないことばかりですが、非正規職員が多くなってきているなかで、正規職員の離職率と採用率とか見させていただくと、正規の職員が減っている中で、正規の職員に対する業務の負担が多くなっていると思います。非正規の方にできないことなのか、多大な業務をしていくと保護者の方とお話しする時間も取れないですし、保護者の方とお話する時間も、保育時間外になってしまうのです。勤務時間の8時間を子どもの保育時間に充ててしまうと、事務的な作業は残業となり、8時間の勤務時間外に全部こなさないといけない。事務仕事だけではなくて、明日の準備等も保育士の仕事ですが、子どもを見ていると時間外にしかできない。何かをしながら横目で子どもを見るなんて、そんなことはできないので、とにかく負担を減らす、どうにか考えたいのですけど、大きく言えばオムツから声をあげたいと思いました。またそれも言える環境、言える機会があれば、言っていただきたいと思います。

## ○委員長

個別具体的なところは、資料に描き切れてないのです。もう1つ大事なのは、なぜできなかったのかということ掘り下げないと、言っているだけになってしまうので、これも宿題にさせていただいて、どういう背景があっこうなっているのか、経緯があるはずですし、書類に関して、あるものは3件だったのが2件に減ったとか、改革はされているらしいですけど、そのあたりを私もその場で聞いただけで、裏を取ったわけではないので、

そこは継続して宿題として見させていただけたらと思います。

今までもいろいろな改善はしているけれども、結果として現場の負担感が強いということをお話されたことだったのです。それはモチベーションの話も今日していただきましたけれども、そういったこととも絡んでくると思うので、1つひとつもぐらたたきをするのはまずいかなと思うので、今いただいたことも大切な事なので、受け止めさせていただき、宿題にさせていただけたらと思います。

#### ○委員

公民館ワークのところを出ていた、公立の幼稚園で、西大路、南比都佐は延長保育なし、日野、必佐は延長保育がある。日野と必佐でも延長の時間が違うとか、公立の中でも不平等さがある。なぜ同じ町立にも関わらず不平等さが出てくるのか。行きたいけど行けないというところにつながってくるということが出ていたと思うのです。

その中で、公立であれば平等にしていくのがいいのではないかな。そうでなければ、地域の特性をもっと活かした運営ができたらいいという話が出ていたと思います。西大路だったら西大路の野山やと河川を活かした保育ができたり、日野であれば街中だからその集団とか、必佐だったら必佐なりのとか、地域の特色を活かした保育をしてほしい。せっかく保育者向けのワークの中で、「地域と交流できる」という意見も入っているし、公民館でも出っていた「地域の特性を活かした」という文言を入れていけると、地域の方々とも交流しながら子どもたちの子育て、教育につながっていけるのではないかなというところが、公民館でも出ていたと思うので、そういった文言を入れていただけると、より、地域住民の方々、保育に携わっていないところで、地域の方々から意見をないがしろにするのではなくて、地域の人たちの意見も大切にしながら、町全体として子どもたちのところを取り組んでいるのだということもお伝えいただくとありがたいと思います。

#### ○委員長

この書き方だと、地域の思いをないがしろにしているように読めましたか。

#### ○委員

そんなこともないのですが、「居場所」だけだったら、ちょっと弱いなと思ってしまいました。居場所、地域の方々はどう携わっていくのか、うまく言えないのですが、ないがしろにしているとは思いません。

私もいい案が出てこないのですが、もうちょっと地域を巻き込むというか、地域の特色を活かすというか、それも難しいのは重々承知ですよ。「そんな簡単に言うけどね」と言われると思いますけど、じゃあ、西大路幼稚園から、公立だったら全部平等にしろというふうにも思うところもあります。だったら、特色を活かすような運営方法、そのどちらかだと思います。西大路幼稚園へ行きたいけど、こんな状況なら行けないとか、先生が足りないから入ったらだめですと言われたという人もいますし、そんなことではないだろうと思うので、だったら特色を活かしてという意見も公民館ワークでもあったと思うので。

#### ○委員長

私的には、地域で育てるということをあえてここに書いていて、それがそのあたりに相当していたのですけれども、ただ、そういうふうにチラッとでも見えたということなら直した方がいいと思うので、悩めます。

何が言いたいかというと、すべての公民館を回って思ったことですが、本当に同じようなところは1か所としてなかったのですよ。うちのところだったら集会所を活用して、もっと子育て層と接点をつくっていかうということもあれば、実は子どもが家を建てたいと言っても、こんなところに帰ってくるなと言いましたということまであるのですよ。それは、各集落の中で決めることだと思っているので、集落の方の思いに沿った形になるべくないかなと思っているので、そういう意味合いを付加できないか、考えたいと思います。ありがとうございました。

### ○事務局

日野町の現状だけお伝えさせていただいております。

まず、1月末にオムツの件について厚生労働大臣から発言があったと思いますけれども、今現在、日野町で協議をしております、日野町においても前向きに対応していきたいと考えているところです。

続きまして保育 ICT ですけれども、今現在、保育所こぼと園について令和4年度から保育 ICT を取り入れております。令和4年度中にあおぞら園とあおぞら園鎌掛分園、桜谷こども園にも保育 ICT を整備いたしまして、令和5年度から ICT 化をして対応していきたいと考えております。

あと、保育士のことでいきますと、会計年度任用職員という正規とは別の職員がおりまして、その中でもフルタイムの職員とパートタイムの職員がおります。フルタイムの職員が正規に近い仕事をしていただいている保育士になりますが、その保育士につきまして、月額給料のベースアップをさせていただいて、何とか今以上の職員を確保するように対応しているところでございます。

最後に、保育士が本来やるべき簡易な作業のところ、なかなか手が回らないという現場の声もございますので、保育補助という、保育資格をお持ちでない方を雇いまして、そういった方に保育士のサポート、簡単な業務をしていただけるように対応しているところでございます。令和4年度から保育補助の数を増やしまして、各園でご対応いただいているところでございます。以上、ご意見があったところに対して、日野町の取り組みを報告させていただきます。

### ○委員長

ありがとうございました。その他ございますか。

### ○委員

この懇話会の議事録ですけれども、2回目まではホームページに出ているのを確認しましたが、議事録がどうなっているのか共有されていなくて、校正もなかったし、出ましたよというお知らせもなかったというのが、委員としてはどうなんだろうと感じていま

した。

あと、委員長がどこまでご存じかわかりませんが、議会は確かに高齢化が進んでおりまして、子育て世代は今、野矢議員1名しかいないという現状です。あとは町長です。その状況下なので、子育て世代の問題、先ほどから西大路幼稚園のこと等も出ていますけれども、様々な問題はまだ解決していない状態だと思います。そういうことは議会質問で出たりはするのですが、本当に困っていることをなかなか議員さんが取り上げてもらえない、取り上げてもらっても他人事のような対応です。私も議会に直接聞きに行ったり傍聴させてもらったり、あとオンラインでも視聴をしているのですが、先ほどの委員もおっしゃっていましたが、議会が皆さんと一緒に大々的に話し合う機会を最終的に持った方がいいのではないかと思います。4月に日野町議会と県議会の選挙があり、役場も人事異動があるので、来年度から人員も替わるとは思いますが、また同じやり取りと説明をしなければいけないという状況はなしにしてもらった方が、ここにいる皆さんはありがたいのではないかと思います。この場におられる担当の方も替わられるかも知れないが、本気で変える気があるなら、できればこういう懇話会の担当の方は継続していただきたいというのが思いです。

#### ○委員長

私の専門は住民共生連携という話を最初にさせていただきましたが、まず、人事のことは私が口出すことではないので、私の覚悟だけ申します。

替わることというのは、私は何回も経験してきましたし、いろんなことがありました。けれども、少なくとも私は替わりません。ですから、同じ説明を何度繰り返しても絶対引き継ぐように頑張ります。そのために私はここにいると思っています。でなければ、幼児保育の専門でない、住民共生連携の私がいる意味がないので、そこは全力でやります。

議事録の件はすみません、私もチェックが漏れていたもので、今後そういうことがないよう事務局とこのあとで調整して、皆さんに見ていただくようにしたいと思います。失礼いたしました。

#### ○委員

ほかの協議会では、ホームページに載せる前に校正を何回もかけてくださって、修正案も送ってくださり、これをあげますというものもきちんと送ってくださるのです。

すごく大変な手間だと思いますので、校正まではないにしても、あげますという一言ぐらいは欲しいなと思います。

もしかしたら、この部分は載せてほしくなかったとか、そういうこともあると思うので、そこはよろしくお願ひしたいと思います。

#### ○委員長

おっしゃるとおりです。そこはまず私に責任があるところだと思うので、事務局と協議して今後のあり方を決めて報告するようにいたします。大変申し訳ございませんでした。

~~~~~

## ○委員長

そのほか、事務局からありますか。

## ○子ども支援課長

今後の日程について、よろしいでしょうか。

いろいろとご議論をありがとうございます。本当に皆さんから貴重なご意見をいただいて、また保育士の方々も、このようにあげた声を皆さんと共有できたということは、保育士にとっても非常に意味のあることだと思いますので、これからそのことをさらに活かして保育の質が上がるように、こちらとしましても一生懸命努力していきたいと思えます。ありがとうございます。

今後の予定ですが、2月24日に議会へ報告の場がございますが、それは時間的に少ししかないので、3月議会で詳しくお伝えをする時間を設けていただいております。それと、2月24日に教育委員会の中の総合教育会議という場がございますので、佐々木先生に来ていただいて、中間報告について教育委員さんと共有する場がございます。

それともう1つ、3月27日に子ども子育て会議という条例設置の会議の場で、これも佐々木先生に来ていただいて、本日の議論を踏まえ説明をしていただく予定をしております。

皆さんは任期がもう1年ございますので、引き続きお願いしたいと思います。

また、次回の会議は佐々木先生とも相談しながら、ご案内していきたいと思えます。よろしく申し上げます。

## ○委員長

ありがとうございました。予定のものはこれで以上ですけれども、何かございましたらご発言ください。大丈夫でしょうか。

それでは、雪が降る中、ありがとうございました。それと、皆さんから言いにくいこともあったと思えますが、直接的に突っ込んでいただいて、委員長としてすごく感謝しております。一生懸命私も悩んでいるつもりですが、どうしても抜けが出てくるので、そこを皆さんにフラットに突っ込んでいただいて、直して、より良いものにしていく。そうすれば進んでいけると思えますので、これからはまたお気づきの点がありましたら、ぜひ突っ込んでいただきたいと思います。思っております。

## ○子ども支援課長

先ほども先生からありました支援が必要なお子さんをお持ちの保護者の方向けのワークショップを、3月2日に役場で行います。その中で、いろいろ支援の必要な方も子育て環境をどのようにしていったら環境が整うかというテーマでお話をさせていただく予定をしております。

それと、日野の若者会議の皆さんとの協議の場も計画をしております。よろしく申し上げます。

## ○委員長

私からもその件について補足します。発達に支援が必要な子どものいる保護者向けワークショップと書いてありますが、正直、前提条件が子どもによって全く異なり、一人ひとり全然違うので、お話を聞くということをベースにしようと思います。今までのワークショップですと、子どもをどこに連れていきますかという話でしたが、そこからスタートするのは無理なので、むしろ、こうであったらよかったな、こうしてあげたらよかったなという話を聞いて、それにはどんなことが必要かということ伺っていく、私たちが勉強させていただくという形でお話を伺いたいと思っていますところでは。

それでは、長々となりましたけれども、これで閉会させていただいてよろしいでしょうか。本日はありがとうございました。

(閉会)